水文・水環境研究部会誌「応用水文」

投稿の手引き・投稿論文テンプレート

Guide for authors - Template of manuscripts for “Applied Hydrology”

応用太郎＊・水文　花＊＊

＊水文大学農学部（〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4）

＊＊水文大学大学院農学研究科（〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4）

OYO Taro＊, SUIMON Hana＊＊

＊Faculty of Agriculture, Suimon University（5-34-4 Shinbashi, Minato-ku, Tokyo, 105-0004）

＊＊Graduate School of Agriculture, Suimon University（5-34-4 Shinbashi, Minato-ku, Tokyo, 105-0004）

(Received 12 January 2009, Accepted 29 June 2009)

Abstract

This is a template for authors who write manuscripts for submission to Applied Hydrology using the MS-Word. Begin the English abstract with one empty line below author names, addresses, and review status. The abstract should concisely summarize key findings of the paper, and should consist of a single paragraph. The font size for this section is 10 pt with text paragraphs spaced with 13 pt. The abstract should contain no more than 250 words. A line below the abstract 5-7 key words should be listed up.

**Key words**: hydrology, environment, flood mitigation, groundwater, model parameter

要　旨

これは，農業農村工学会，水文・水環境研究部会の部会誌「応用水文」のMS-Word用テンプレートです．「スタイルと書式」に各項目に必要なフォントが格納されていますので執筆時に利用して下さい．要旨は主な研究成果を簡潔に要約し，1段落，350語以内で執筆して下さい．日本語要旨のフォントサイズは10 pt，行間は14 ptとします．日本語の要旨は，Key wordsの下に1行あけて配置して下さい．キーワードは，5-7語を日本語要旨より1行あけて配置して下さい．

キーワード: 水文，環境，洪水緩和，地下水，モデルパラメータ

１．はじめに

このテンプレートは，水文・水環境研究部会誌「応用水文」の原稿を作成するために必要なレイアウトやフォントに関する情報を記述しています．このテンプレートに従って原稿を作成してください．

２．全体のレイアウト

2.1 原稿用紙

原稿用紙は，縦置きA4用紙・横書きとしますが，製本後の仕上がりはB5サイズとなります．

2.2 マージン

ページのマージンは，次のとおりとします．

上マージン　：25 mm （ただし，最初のページのみ30 mm）

下マージン　：20 mm

右マージン　：20 mm

左マージン　：20 mm

３．題目部分のレイアウト

題目部分は，日本語論文題目，英語論文題目，日本語著者名，日本語所属機関名（住所），英語著者名，英語所属機関名（住所），原稿受領日および閲読終了日，英語要旨，英語キーワード，日本語要旨，日本語キーワードで構成されます．

レイアウトは以下の通りとします．

①日本語題目：明朝体14 pt，センタリング

②英語題目：Roman体14pt，センタリング

③日本語著者名（姓名の順）：明朝体 10 pt，センタリング

④日本語所属機関名（住所）：明朝体 10 pt，センタリング

⑤英語著者名：Roman体10 pt，センタリング

⑥英語所属機関名（住所）：Roman体10 pt，センタリング

⑦英語原稿受領日，査読終了日

⑧空行（一行）

⑨英語要旨：Roman体10 pt，両端揃え（250words以内）

⑩空行（一行）

⑪英語キーワード：Roman体 10 pt，左寄せ（5－7語）

⑫空行（一行）

⑬日本語要旨：明朝体10 pt，両端揃え（350語以内）

⑭空行（一行）

⑮日本語キーワード：明朝体　10 pt，左寄せ（5－7語）

日本語要旨およびキーワードという標題のフォントはゴシック体を使用してください．英語AbstractおよびKey wordsという標題のフォントはRoman体で太字にしてください．

著者と所属機関名はアステリスク（＊）の数で対応づけてください．

４．本文部分のレイアウト

本文とキーワードの間に，行間スペースを1行設けてください． 1ページ約40行となるよう調整してください．本文のフォントは漢字・仮名は明朝体の全角10.5 pt，英字・数字はRoman体の10.5 ptを用いてください．

4.1 見出し

見出しのレベルは3段階までとします．したがって，第3レベルより下位の見出しは用いないでください．

4.1.1 見出しのフォント

見出し（章節）のフォントは，章節番号はゴシック体の10.5pt（第１レベルは全角，第2レベル以下は半角），漢字・仮名・数字はゴシック体の全角10.5pt，英字はゴシック体の半角10.5ptとします．

4.1.2 第1レベルの見出し

第1レベル番号，全角ピリオド（例えば4．）の直後から見出しを書きます．見出しの上に1行の行間スペースを設けますが，見出しの下は行間スペースを設けません．

4.1.3 第2レベルの見出し

第2レベルの見出しの節番号は，第1レベル番号，半角ピリオド，第2レベル番号，半角スペース（例えば**4.1** ）の直後から見出しを書きます．見出しの上に1行の行間スペースを設けますが，見出しの下は行間スペースを設けません．

4.1.4 第3レベルの見出し

第3レベルの見出し項番号は，第1レベル番号，半角ピリオド，第2レベル番号，半角ピリオド，第3レベル番号，半角スペース（例えば**4.1.4** ）の直後から見出しを書きます．見出しの上に1行の行間スペースを設けますが，見出しの下は行間スペースを設けません．

4.2 数式および数学記号

数式は，次に示す式（1）のように書いてください．

  （1）

数式の行は10mm程度のインデントを設けてください．

数学記号は，文章中に出てくる場合も，数式のフォントと同じものを用いてください．

式番号は括弧書きで右詰めにします．

4.3 図表

図表の例を**Fig. 1**および**Table 1**に示します．図表番号の本文中の引用は太字にして下さい．



Fig. 1　氾濫解析のためのブロック分割図

Table 1 灌漑期の水田における窒素とリンの差し引き排出負荷

（a）窒素の差し引き排出負荷



（b）リンの差し引き排出負荷



4.3.1 図表の文字および標題

図表の文字および標題のフォントは，漢字・仮名は明朝体の全角，英字・数字はRoman体を使用してください．

図表中の文字のサイズは10 pt程度としてください．

図表の標題は，10 ptのサイズで次のように記載してください．

Fig＋半角ピリオド＋半角スペース番号＋全角スペース＋標題

Table＋半角スペース＋番号＋全角スペース＋標題

なお，標題の番号は**Fig. 1**，**Table 1**のように太字で表記してください．

4.4 引用文献

文献の引用は，農業農村工学会論文集で採用されている方法に従ってください．

本文中での文献の引用は，「Masumoto et al.(1996)によれば，」「……といわれている（吉田ら，1986；土屋ら1996a）．」のように記述してください．

引用文献はすべて本文末尾にリストとしてまとめてください．見出し文字「引用文献」はゴシック体の全角10 ptで書いてください．引用文献リストは，漢字・仮名は明朝体の全角10 pt，英字・数字はRoman体10 ptを用いてください．

引用文献は，邦文・英文に関わらず，筆頭著者の名字のアルファベット順に並べてください．同じ発行年に同一筆頭著者の文献がある場合には，発行年の後ろにa, b, cを付けて区別してください．

引用文献は次の書式に従って，ぶら下がりインデント（全角1文字分のスペース）で書いてください．

５．謝辞

謝辞を記載される場合には，本文の末尾，引用文献の前に置いてください．

謝辞：謝辞は，本文との間に1行の行間スペースを設けて書きます．「謝辞」という見出しをゴシック体の全角10 ptとし，その直後から謝辞の文章を書いてください．謝辞の文章は，漢字・仮名は明朝体の全角10 pt，英字・数字はRoman体とし，行間は14 ptとしてください．

引用文献

Chow, V. T., Maidment, D. R., Mays, L. W. (1988): Applied Hydrology. McGraw-Hill, New York, 572p.

Guatam, M. R., Watanabe, K. and Ohno, H. (2004): Effect of bridge construction on floodplain hydrology-assessment by using monitored data and artificial neural network models, Journal of Hydrology, 292, pp.182-197.

濱田浩正・今泉眞之・小前隆美（1997）：ラドン濃度を指標とした地下水調査・解析法，農業工学研究所報告，36，pp.17-50.

気象庁（2005）：異常気象レポート2005，http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/climate\_change/2005/pdf/2005

\_all.pdf（確認日：2008/12/31）

日本河川協会（1997）：建設省河川砂防技術基準（案）同解説，調査編，山海堂，91p.